特集 未踏ユースから育ったタレントたち 17

プログラマじゃないから続くコミュニティ

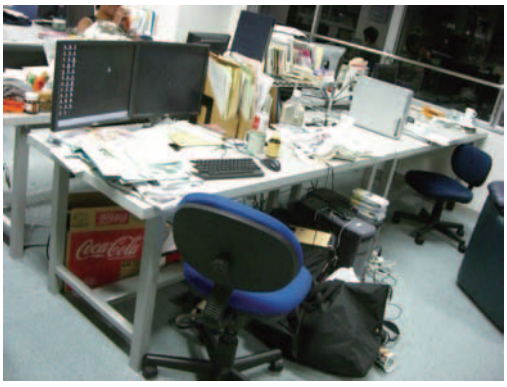
中山 心太　NTT 情報流通プラットフォーム研究所

正会員．電気通信大学大学院人間コミュニケーション学専攻修了．2006 年下期未踏ユースに採択され，Web ブラウザ拡張のフレームワークを開発．現在はNTT 情報流通プラットフォーム研究所所属．情報セキュリティおよびクラウドの研究に従事．
nakayama.shinta@lab.ntt.co.jp

「私はプログラマではありません」．未踏ユースのブースト会議で，こう発言したと記憶している．未踏ユースでは，フィッシングサイト検知アルゴリズムをブラウザに搭載するため，Web ブラウザの拡張を行いました．結果はどうだったかというと，提案書に書いた内容はかろうじて満たせていたものの，ユーザはたぶん数人，今では自分でさえ使っていないという有様です．そんな私ですが未踏ユースを通じて得た人脈というものは今でも続いています．それは単に私がプログラマではないからだと考えています．

プログラミング能力だけをみると私よりできる人は何人もいます．たとえば，このページの前後にいるであろう，西尾さん，上田さん，大島さん，上野さんらには遠く及びません．しかし私はセキュリティや人間の認知などのノウハウに関しては提供できます．また会社ではマルウェアの逆アセンブル，ハニーポットの構築，仮想マシンの機能拡張，検索エンジンのクローラ開発等々を行ってきたため，これらに関しても公知になっている範囲では情報交換ができます．私はその対価として彼らからプログラミング言語やスパコン，3D レンダリングなどの最新知見を教えてもらっています．

未踏の面白いところは，こういったスキルセットが異なる人同士が自然と集まれることです．世の中往々にしてプログラミングなどの，ある特定のことが得意な人同士が集まります．しかし，プログラミングだけができる人が集まっても，新しいものはなかなか生まれません．プログラミングができる人とデザインができる人が集まれば，新しいことができる可能性は飛躍的に向上するでしょう．



未踏中の研究室の惨状（たぶん 3 泊目）

最近は「普通のプログラマにとって使いやすいエディタ」について研究しています．未踏に巣くうスーパープログラマと異なり，普通のプログラマにとってプログラムを一から書くということは稀です．たいていは既存プロジェクトへの配置などにより，他人の書いたコードのデバッグや機能拡張を行います．現在のエディタは，プログラムの全体を理解している優秀な人が使うことを前提に設計されているようにみえます．しかし現実のプロジェクトでは，後から参加する人も多いため，全体を理解している一握りの人と部分的に理解している多くの人によって構成されています．このような環境下では，分かりやすいコードを書く，分かりやすいコメントをつける，理解できない個所を人に聞く，といったコミュニケーション能力が重要視されます．そのため，私はプログラミングの本質はコミュニケーションであると考えています．

現在のプログラミング言語やエディタは，コミュニケーションの基盤の上には成り立っていません．30 年以上前に開発された一人用のコンパイラやエディタを，無理やり多人数向けに拡張したものが使われています．最近の疑問は「なぜ Facebook の上でプログラミングができないのか？」ということです．前述のようなプログラマとデザイナが，快適にコラボレーションを行う環境がなぜいまだに作れていないのでしょうか．このような問題を解決するため，プログラミングとコミュニケーションを融合させた次世代のエディタの研究開発を行っています．私はスーパープログラマにはなれないでしょうが，未踏でスーパープログラマの人脈を得たからこそ普通のプログラマを手助けすることはできます．

脚注　なおこの原稿は，開発しているエディタについて熱く語る予定でしたが，分量超過のため没になりました．没原稿は下記にありますので，よろしければごらんください．
http://tinyurl.com/nexteditor/

（2011 年 9 月 16 日受付）